

さらば自虐史観！いま新しい歴史観の時代へ！

轟々たる反響の中、国論を二分する一大言論戦の幕はあがった。

いっさいのタブーを排し、いま知的衝撃の扉がひらく。



歴史教育改革の超一流スーパースター

藤岡 信勝

東京大学教授 自由主義史観研究会代表
新しい歴史教科書をつくる会副会長

昭和18年生まれ。北海道大学教育学部卒業。現在、東京大学教育学部教授。平成元年、「授業づくりネットワーク運動」を提唱し、平成4年より教室ディベートの第一人者として活躍。湾岸戦争を契機として妄想的戦後平和主義の錯誤を見抜く。平成6年、月刊「社会科教育」に歴史教育改革の必要を提唱する連載を開始。平成7年、自虐史観に染まった近代史の見直しを唱えて「自由主義史観研究会」を設立（代表就任）。同年、季刊雑誌「近現代史の授業改革」を創刊するとともに、産経新聞に「教科書が教えない歴史」の連載を開始し大反響をまきおこす。単行本として出版された「教科書が教えない歴史」シリーズは、驚異的ベストセラーとなり、国民の多くに歴史見直しの必要性を認識させる契機となった。同年12月に、西尾幹二氏や小林よしのり氏らとともに「新しい歴史教科書をつくる会」を設立し（副会長就任）、全国的に大きな盛り上がりを生んでいる。この間、TV（「朝まで生テレビ」など）にも度々出演し、多くの雑誌に論文発表し、休むヒマもなく全国を講演に飛びまわっている。左翼勢力から卑劣な集中攻撃を受けながらも、自らの意志と信念を果敢に貫く“サムライ”にして歴史教育学界最大の超有名スーパースター。著書として「教科書が教えない歴史①②③④」「国民の油断」「汚辱の近現代史」「自虐史観の病理」等があり、共著書は「歴史教科書との15年戦争」「新しい日本の歴史が始まる」「歴史の本音」等々、対談としては「国家は誰が守るのか」「戦後教科書から消された人々2」等がある。現在、自虐史観是正と歴史教育改革における最有力ホープであり、日本の未来への鍵を一手に握っている“歴史見直し派”のナショナルヒーロー。